

# 地域人

vol. 35



## 「目の前の 笑顔のために、 共に生きる」



グリーンケア芳縁 代表  
(NPO法人あったかいいねっと：代表理事、  
共生型デイサービスお天気いいね：所長)

植田 由香理  
(うえだ・ゆかり)

今回の「地域人」は、グリーンケア芳縁 代表の 植田 由香理さんをご紹介します。

### 活動のきっかけ

12年前、主人を突然亡くし、10歳と4歳の子供を抱えて、私は失意のどん底にいました。抑うつ、引きこもり、不眠など心身の状態も乱れていました。そんな自分が今元気でいられるのは、グリーンケア・グリーンカウンセリングに出会い、学び支えられてきたからです。浜田の町の中に、安心して涙を流せ、ゆっくり自他の話を聞き支え合える場が欲しい。グリーンケア・カウンセリングの学びを活かし伝える場があったなら、人は大きな悲嘆につぶされにくくなるのではないかと、次なる病氣や自死を作らなくてすむのではないかと考えました。

2012年5月、友人の協力もあり、様々な喪失体験により生じたグリーフ(悲嘆)に寄り添える任意の市民団体『グリーンケア芳縁』を設立し、支える立場として活動を始めました。

### やりがい、心がけていること

設立当初は友人と2人で延々参加者が来るのを待ち運営する日々でしたが、現在は痛みの分かち合いの参加者の方々が、この会の必要性和会運営にやりがいを感じ事務局など引き受けてくれ共に活動できていますので本当に有難くやりがいを感じています。私は家族を失いましたが、この会のおかげで、新しい大きな家族に恵まれてきていることが何よりも喜びとなっています。

心がけていることは、「一人一人喪失体験も違い価値観も立場も違いグリーフも異なる」ということを踏まえ、常に白紙の状態でお出逢わさせていただいています。狭い地域での活動の為、個人情報が入り込んでしまいがちなので、痛みの二次被害ができる限り起きないように守秘義務については毎回お話をさせてもらい、極端な場合、町で出会うかも知れないふりをする等参加者の方々に協力をお願いしています。

### 触れ合ったエピソード

定例会の中で参加者の方が、辛く苦しい表情・涙とともに「もう死んでしまいたい。死んだほうがまし」とよく呟かれます。そんな時はじっくり話を聞きながら「死な

せませんよ!」とスタッフ一同涙をためた笑顔で声をそろえる場面が幾度となくあります。

そして回を重ね月日がたち、辛い想いの合間から暖かい涙へ変わり笑顔が戻ってきている姿に出会う回数が増え「この会に来て良かった。あんたらに出会ってなかったら、とうに死んでた」と話されるのを聞くと一安心し本当にやってきて良かったなと感じます。

### 今後、自分が地域の方に対して伝えたいこと

活動の中で仲間も増え、同時に会の参加対象者を死別喪失体験に限らず間口を広げたため、いじめやパワハラ、人間関係の難しさから自己否定し自分自身を失いかけている方々などとの出会いもあり、町の中に潜む課題に向き合い、弱い立場の方や生きづらさを感じる方々を支え合う社会づくりへの関心が強まってきました。

グリーンケアの活動は、看護師をしながらライフワークとして取り組んできましたが、「もっとしっかりした活動がしたい。しなければならぬ」との思いが強くなり、本格的に活動を始める覚悟を決めて昨年勤めていた病院を退職し、『NPO法人あったかいいねっと』を設立しました。

私のように、それぞれが原体験としてNPO活動に取り組む理由を持っている仲間にも恵まれ、命を大切に共に生きる支え合いの社会につながる「地域共生社会拠点づくり」の活動を行い『共生型デイサービスお天気いいね』の運営を開始すると同時に、『ともいきサロン』として地域に開いた障がいのあるなしにかかわらずどなたでも参加してもらえ共に育ちあうことの出来る共生型交流サロン活動も行っています。これからも共に働く仲間と共に、目の前の笑顔のために頑張っていきたいと思えます。

\*共生型サービスの必要性は、国(厚労省)が制度を平成30年4月に新規創設し、浜田市も条例を制定するなど、既に広がりを見せていて、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに関わらず、共に生き支え合える社会を作るための有効策とされています。

**NPO法人あったかいいねっと  
共生型デイサービスお天気いいね  
グリーンケア芳縁**

高知県浜田市熱田町1129番地1  
Tel:0855-27-4966 Fax:0855-25-5266  
Mail:npo@attakaiinet.org  
問い合わせ時間/9:00~16:00(月~金)

▼あったかHP



▼グリーン芳縁HP

